

実施報告書

HT26223

小学生集まれ！
グローバルな科学や「ものづくり」と英語の冒険にチャレンジ！



開催日：平成26年8月19日(火)

実施機関：鳥取大学
(実施場所) (工学部)

実施代表者：小田明道
(所属・職名) (技術部・技術専門職員)

受講生：小学5,6年生 20名

関連URL：

【実施内容】

[受講生にわかりやすく研究成果を伝えるために]

世界の自然、文化、国旗、言語の基本知識クイズや留学生との交流によって国際理解を深めること、次にはネイティブの先生のユーモアと豊かな表情で英語の発音のコツと基本について指導を受けること、さらに留学生と一緒に「ものづくり」や科学実験を体験することなど、これらのグローバルな環境下で様々な積極的活動と国際的体験から創造的英語コミュニケーションの大切さや必要性を自然に学べるようにした。

[受験生に自ら活発的な活動をするためにプログラムを留意、工夫した点]

「世界市民にチャレンジ！」と「Can you speak English?」はクイズ、ゲームや発表を取り入れることによって、声を出したり、体全身を使って体験する参加型の活動的なプログラムになっている。次に、「ものづくり」や科学実験を留学生と一緒にするなど自然にグローバルコミュニケーション体験ができることにも留意した。

また、過去4回同事業を開催した経験からペーパークラフトを完成するための時間が少し足りなかったためその時間を少し長くした。さらに、科学実験では参加者全員に体験してもらうため、実験装置や支援するスタッフの数を増やすなど改善する工夫を行った。

[当日のスケジュール]

- 8:45 - 9:00 集合(受付)工学部大学院棟玄関
- 9:00 - 9:20 開校式(挨拶、科研費説明及びプログラム説明)
- 9:20 - 10:20 「世界市民にチャレンジ！」(Kip A. Cates 教授)
- 10:20 - 11:20 「Can you speak English?」(Scott Riordan 講師)
- 11:20 - 12:00 工学部ものづくり教育実践センター見学(三浦 政司 助教)
- 12:00 - 13:00 昼食(学生食堂)
- 13:00 - 13:50 「鳥取大学の中の世界！」(Dagnachew Aklog 准教授・国際交流センター)
- 13:50 - 14:30 「水と空気の科学」留学生と一緒に実験体験(小田明道 技術専門職員)
- 14:30 - 15:00 クッキータイム
- 15:00 - 16:20 留学生と一緒に「ものづくり(ペーパークラフト)」!(小田明道 技術専門職員)
- 16:20 - 16:40 修了式(未来博士号授与)
- 16:40 解散

[実施の様子]

前を上回る参加人数、教員、講師、技術職員や留学生の熱意ある指導と小学生5、6年生の積極的なプログラムへのチャレンジ！で大変盛り上がりました。(写真:イベントの様子)



「世界市民にチャレンジ！」



「Can you speak English?」



ものづくり教育実践センター見学1



ものづくり教育実践センター見学2



「鳥取大学の中の世界！」



「水と空気の科学実験」



ペーパークラフト工作



スタッフ紹介



修了式(未来博士号授与)

[事務局との協力体制]

- ・研究協力・国際協力部研究協力課の担当者が日本学術振興会との連絡調整、提出書類の確認修正
- ・総務課広報企画係のもと大学HP、市報やJSコーポレーションなどイベント募集案内の掲載
- ・工学部庶務係と会計係にそれぞれ学生バイトの手続きと委託費の管理や支出報告書の確認

[広報体制]

市報、大学のHPとJSコーポレーションに記事を掲載する上で本学広報センターにお世話になった。また、鳥取市、智頭町や西粟倉村(岡山県)の教育委員会及び各小学校にチラシ配布をお願いした。

[安全配慮]

昨年と同様、暑い日の開催になったので、参加者の熱中対策として室内の温度調節、水分補給や休憩をこまめにとるなど注意した。また工作、実験や見学などリスクの排除や注意するため経験豊かなアシスタントの学生を1名増やし5名にするなど安全面には万全を尽くした。さらに、昨年同様に参加者の移動の安全や負担を少なくするため、見学と昼食以外のプログラムは工学部大学院棟6階の隣り合った2部屋で実施した。

[今後の発展性、課題]

本事業は、今年度で5回目である。学生や教職員のグローバル人材育成を推進する本学でのイベントとして年々定着してきている。特に今回は遠方のお阪、福岡からの小学生の参加者があり、幅広い地域から参加者を迎えるイベントとなった。次にアンケート結果からは、内容が多種多様だったため「おもしろかった」、「わかりやすかった」、「少し科学に興味があった」の回答が多数であり、本プログラムは昨年同様に良い評価を得た。この理由としては、興味深い内容が多く好奇心が旺盛な小学生をある程度満足させられたこと。昨年、少し時間が足りなかったペーパークラフトを長くしたため完成者が多くなることがあげられる。反面、ものづくり実践センター見学と科学実験の時間が少し足りなかった。これらの対策としては、前者は、グループ分けと見学方法の見直すこと、後者は、前のプログラムの時間を厳守することで改善できる。さらに時間に余裕を持たせるため、2日間での実施も検討することなどが今後の課題である。本プログラムでは小学生は「ものづくり」、科学実験、英語などに積極的に集中して取り組んでいた。したがって、参加者に何事にも積極的に考えてチャレンジすることのおもしろさを伝えられた。今後は、さらに参加者が交流する機会も増やしてより充実したものしたい。以上から、将来のグローバルな「ものづくり」や科学技術を担う子どもたちのため今後も継続的取り組みが必要と確信した。

最後に、本事業を行うにあたって日本学術振興会をはじめ関係者の皆様へ感謝の意を表します。

Kip. A Gates
Dagnachew Aklog
三浦 政司

地域学部 教授
国際交流センター 准教授
工学部・ものづくり教育実践センター 助教

【実施協力者】 16名

【事務担当者】

高塚 剛

研究・国際協力部 研究協力課 事務職員